図 37　水平搬送方法の実演写真(ネットより)

図 37 には、ネットから探してきた運搬方法の写真をご紹介します。毛布担架を 4 人で持ったり、竿がない時には毛布の端を丸めて持ったりする様子です。

図 38　簡易担架で階段を下ろす写真(ネットより)

図 38 も、ネットから探してきた運搬方法の写真です。肩ひもがついた担架で、たぶん老人施設の階段を降ろしている様子です。左側は 4 人の運び手の配置がアンバランスですし、右側は女性 3 人で本当に移動できるのかなと心配になります。まだ、確定した方法があるわけではない状態だと思います。

図 39　布担架 2 種

図 39 には、ネット検索した布担架を2つ示しました。今回、購入したのは、左のロープライスの布担架です。右のほうが布がしっかりしています。持ち手の位置と方向が違うので、どちらが使いやすいのかは試していません。今回は、手軽に購入できる利点を重視して、ロープライスを選びました。結構、使えるという印象でした。足が入れられる袋は、乗せられて見て、安心感がありました。

5. 実例で考える

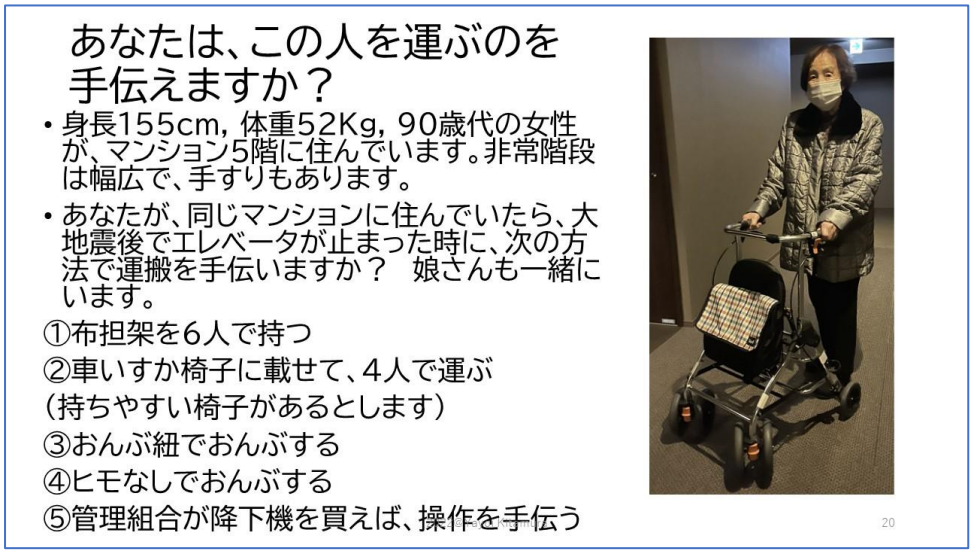


図 40　この人を階段から下ろすのを手伝えますか？

ここまで、いろいろな方法をご覧いただきました。実際に、使ってみようと思うかどうかを、ご参加の皆様に伺いたいと思います。具体的な例を写真に示しました。

通常は歩行器を使っていて、階段は降りられない 90 歳代の女性がいます。娘さんが一緒にいますが、マンション 5 階から下ろせません。あなたが、同じマンションに住んでいたら、大地震後でエレベータが止まった時に、運搬を手伝えるでしょうか？

5つの方法についてひとつずつうかがいます。「手伝える。練習すれば手伝えそう。」という人は手を挙げていただけますでしょうか。何度、答えていただいてもかまいません。人数を数えたいので、数え終わるまで、手を挙げたままにしていただけますでしょうか。

① 布担架を 6 人で持つ･･･27 名
② 車いすか椅子に載せて、4 人で運ぶ…15 名(持ちやすい椅子があるとします)
③ おんぶ紐でおんぶする…8 名
① ヒモなしでおんぶする…1 名
② 昇降機があれば操作を手伝う…16 名

ありがとうございました。多い順に、布担架を 6 人で持つ、昇降機があれば操作を手伝う、車椅子か椅子に載せて 4 人で運ぶ、おんぶ紐でおんぶするでした。

6. 意見交換

(防災部長)できれば、地域で助け合う準備につなげたいので、どうしたらいか、皆さんから、ご意見をうかがいたいと思います。

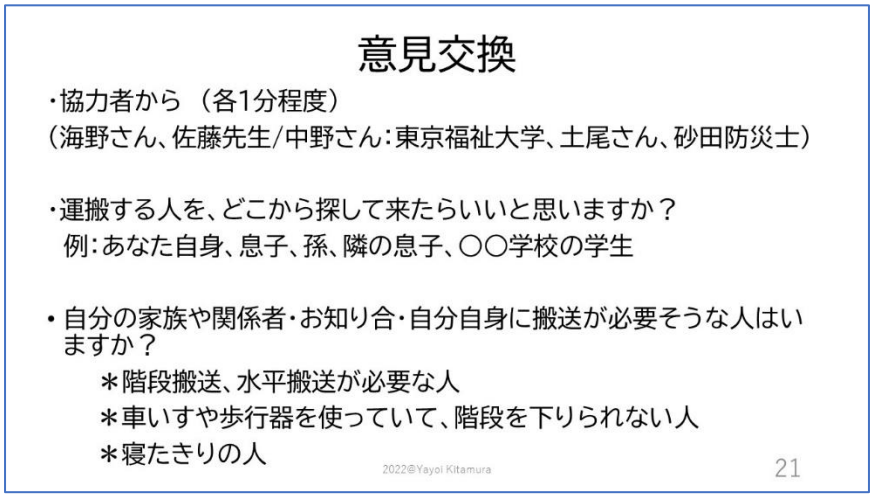


図 41 意見交換の準備

スライド(図 41)には、意見交換の話題を書いてみました。最初に、試行当日、運ばれた人、運んだ人から、一言、お願いいたします。まず、X さんから、お願いします。

(X)先ほどの写真は、うちの母です。普段は、シルバーカーを使って、外出しています。高層マンションに住んでおりますので、階段の歩行は全くしておりませんし、できないと思います。本人に、動画を見せたところ、「できれば布担架がありがたいな」ということを申しておりましたので、布担架とゴム軍手だけは買っておくのもいいかな、と思っています。ただ、私も、先ほどの試行に参加させていただいたのですが、30 階以上から 1 階までを、素人の方にお願いするのは、非常に難しいなというのも感じました。以上でございます。

(防災部長)ありがとうございます。次に、運んだ側の東京福祉大学の先生からお願いします。学生さんの募集を仲介してくださっただけではなくて、試行では、一番先頭で、指揮をとってくださいました。

（教員）東京福祉大学社会福祉学部社会福祉学科の教員です。本日、皆さんと、このような場に参加させていただきましてありがとうございます。防災部長からお声掛けいただきまして、試行に参加させていただきました。いろんな道具を用意してくださって、運びやすいようにということだったのですが。やっぱり慣れていないという感じがありました。

大学では、介護現場の救命方法は学びますが、災害に関する教育というのは、本当に少ないです。介護もそうなのですけれども、できるようになるまでは、すごく疲れるし、力の入れ方が分からなくて、うまくいかないことが多いです。慣れてくると、結構、上手にできるのですけれども。災害が起きたときも、運ぶ人も移動困難者も慣れないと難しいので、日ごろの訓練が大事だと感じました。当日参加した学生の一人も、今日来ておりますので、ひと言、感想をもらいたいと思います。お願します。

（学生）東京福祉大学社会福祉学科の 4 年生です。今回、試行に応募した時には、とても簡単なプロジェクトだと思っていました。実際に参加してみると、とても難しい点が、いろいろありました。布担架が一番担ぎやすいなと思ったのですけれども、運ぶ方も運ばれる方も、本当に安全なのかを確認するのが大変だなと思いました。そういった改善点や、避難をどうするかを考えるということは、すごく大切だなと思います。このプロジェクトに参加しなければ、それも考える機会はなかったと思いますので、こういったプロジェクトをたくさんの方に知っていただいて、考える機会をつくっていったらよくなるのかなと、意識改革になるのではないかなと思いました。

（防災部長）ありがとうございます。学生さんは、アルバイトとして、謝金を時給 1200 円、交通費を上限 1000 円で募集しました。応募してくれた学生さんは、相当、遠くから参加してくださいました。例えば、神奈川県足柄市、栃木県宇都宮市、埼玉県古河市などです。ということは、大地震が、昼間、起こったら、学校に来ていれば、学生さんは家に帰れない。今は、オンライン授業で登校していませんが。登校していれば、家に帰れない。学生さんの安全を地域で確保する一方で、「学生さんができることは手伝ってね」という下心もあります。地域が、学校とか企業とつながるというのも、大事なことだと思います。

私が先生と私が知り合ったのは、東京福祉大学の文化祭でした。今回、改めて確認させていただいたのですが、豊島区民社協「区民ミーティング」と東京福祉大学学園祭実行委員会とのコラボ企画だったそうです。その前年から、社協（地区担当）と東京福祉大学とは講義や区民ミーティングで関わりを深め、学園祭に向けては、先生を含め実行委員の学生たちや、地域住民、社協職員が何度も打合せを重ね、役割分担、防災食試食の準備等企画もしたそうです。豊島区区防災危機管理課は講演と物品の寄付をされたそうです。私は、社協のチラシを、どこかで見つけて、参加させていただきました。その時に、たまたま、隣に座っていらしたの

が先生でした。今回、学生さんにお手伝いをお願いしたいと思った時に、その時の記憶から先生にご連絡しました。私が作った募集チラシに、先生は、とても丁寧に、学生さん向けの説明も加えてくださいました。知らない町会でなく、知っている大学の先生を介することで、学生さんも安心してご応募いただけたと思っています。

次に、動画でご紹介した5階建てマンションにお住いの A さんから、ひと言、いただけますでしょうか。A さんには、最初の練習で、5 種類、全部の方法について、運ばれる役をしていただきました。いかがでしたでしょうか。

（A） 我が家は、動画の最初に出てきた5階建てのマンションで、最上階に住んでいます。夫が車いすで生活していて、70 キロ前後の体重です。昨年の地震でも、エレベータが 3 日間止まりました。今回の経験からは、家族で移動するのはとても無理だと思いました。そこで、とにかく火を出さないこと、それを家族に強く言っております。そして、どうしても必要な場合に、助けていただく、おろしていただくということを、お願いをするということを、同居の家族と話し合っています。

（防災部長）ありがとうございます。Aさんのマンションの 1 階は「こみっとプレイス」という、カフェになっています。試行の時には、本来はお休みの日曜日に開けていただいて、荷物置き場や休憩場として使わせていただきました。今日は、「こみっとプレイス」さんからのチラシも、資料の中にあると思いますので、少し、ご紹介させていただきます。「こみっとプレイス」さんは、障害を持った方の就労継続支援 B 型の施設です。B 型というのは、障害や体調に合わせて自分のペースで働ける場所で、1 日 1 時間や、週 1 日の利用も可能な事業所です。「フルタイムで働くのは難しい。短い時間だけでも自分の能力を生かしたい。」「フルタイムになる前に、準備したい。」という方が安心して作業ができるところです。

地域の方には、カフェとして、安いお値段で、おうどん、お茶やお菓子が提供されますので、ぜひ、ご利用ください。残念ながら、あまり混んでいないので、ゆっくり話をしたり、会議をすることもできるスペースです。漫画もたくさん置いてあって、座って読むことができます。

災害のときに、もしかしたら、情報や物資を中継するたまり場にしたらいいんじゃないかな、ということも思いました。都営荒川線沿いの向こう側にあります。救援センターと班を中継する自主的な拠点があるといいという話は、被災地支援にいらした社協の課長から教えていただきました。例えば、東日本大震災では、マンションのロビーが地域の自主的な拠点になったということもご紹介いただきました。

他にも、参加者の皆さんからのご意見とか、ご質問を受けたいと思います。今日、来ていただいて、こんなこと聞きたかったのだけれど、まだ聞けていないとか、ご質問あるでしょうか。・・・お顔がわかるところで、B さん、いかがでしょうか？

（B）　　ありがとうございます。私も、高層マンションに住んでいるのですけれど、降りるのは相当難しいなということが、よく分かりました。マンションの場合は、外に避難しないで、在宅避難するための備蓄とかを、ちゃんとするということなのではないのかなとか思いました。

（防災部長）ありがとうございます。今日、来ていただいた中に、災害時に階段から降りるのが心配な人というのは、どれぐらいいらっしゃいますか。あんまりいないですね。C さん、手を挙げていませんが、階段を歩いて降りられますか？

（C）　　今日は、お若い方がいらっしゃるのが印象的です。地域に住んでいたら、隣近所、顔見知りになっていれば、「ちょっとあなた、助けてくれない？」というような声を掛け合えると思います。全然知らない人には、ちょっと遠慮しちゃいますけれど、いつも会っていて、話したりすれば、気安くできるかなというふうに思いました。

（防災部長）ありがとうございます。東日本大震災でも、「知り合いを助けた」という結果が出ています。人と知り合うきっかけって色々な形があると思いますが、挨拶の次の一歩を、どんなふうにして知り合えるのかというのを、各自で、色々な場合に、踏み込んでいくといいのかなと思います。

今日、一番、私が声をかけて動いてもらっているのは、我が家の隣にお住まい男子高校生です。「今日、手伝ってくれない？」とアルバイトとして頼んで、初めて、お名前をうかがいました。名前がわかるだけで、「〇〇君、〇〇して！」と、とても呼びかけやすくなります。

D さんからは、近所でよく見かける視覚障害の人が心配だと、前にお話しをうかがったことがあるんですが。その話をしていただいてもいいですか。

（D）今日は、皆さん、お世話になりました。撮影のために港区から来ました。うちの事務所の傍で、時々、目の不自由な人をお見掛けします。何かお手伝いをしたいのですが、どうやってお手伝いしたらいいか分からなくて。結局、声を掛けて、「どうやってお手伝いしたらいいですか」って聞いて、横断歩道の渡り方を教えて差し上げたことがあります。その後、大きな通りの歩道橋では、「すごい、怖い」っていうふうにおっしゃっていました。警察に行って、「信号機を付けてもらえないですか」と言ったこともあります。環境をどうやって整えていったらいいのかなあ、と思っていました。

（防災部長）ありがとうございます。障害のある人を街で見かけると、何か手伝いたいけれど、どうしたらいいのか分からないということは、よくあると思います。地域で、そういうときに仲介役になるのが民生委員さんだったり、社会福祉協議会だったりしますね。資料に、社会福祉協議会（略して社協）の電話番号を書きました。「こんな方、見かけるのだけれど、何かできることはありませんか」という連絡をしてもよろしいでしょうか。

（社協）ありがとうございます。豊島区民社会福祉協議会のＥと申します。地域の方が困っていること、ちょっと気になることは、もちろんですし、ご本人からも色々なお困りごとなにかしら一緒に考えていきたいなと思います。すぐに改善できなくても、先ほどのように、警察の方に声を掛けて、信号を付けてもらえるようにというふうなというアイデアもあります。いろんな方と、私たちが関係機関を繋ぎながら、いろんなことを話してくことで課題が解決したり、「こういうことができるかもしれないね」というふうな形になったらいいなと思います。皆さんの気付きということがとても大事になりますので、お互いに協力させていただいて、一緒に考えていただきたいと思います。

（防災部長）ありがとうございます。高齢者については、ふくろうの杜高齢者総合相談センターも窓口になっています。

　音の出る信号機に関しては、私も別のところで聞いたことがあります。地域住民の方から、「音がうるさい」という苦情もあるらしいです。特に、夜、寝ている時間は音がうるさい。地域の防災部長さんが個人的に警察に言いに行ったら、「地域住民に許可を得ないといけない」と言われたそうです。地域の意見として、音を消す時間帯を、町会に取りまとめてほしい、ということでした。そういう形で、個人の便宜のためでも、地域の関わりというのが出てくるかなと思います。では、後ろのほうで手を挙げてくださった方、お願いします。

（F）すぐそばの一戸建てに住んでいます。この会の趣旨に、合っているのかどうか分からないのですけれど。いざ、神戸の地震みたいのが起きたときに、我々はどうしたらいいのだろうか。どこに集まったらいいのか。おそらく、連絡網は、みんなぶち切れちゃうと思うもので。そうした場合は、まずどこに避難したらいいのかなというのを伺いたいと思いました。

（防災部長）それは、またちょっと大きな別の話なので、アンケートの裏に書いていただけますか。関係各所、可能な限り確認して、報告書で回答させていただきたいと思います（本冊子巻末の付録1に私見を書かせていただきました）。残念ながら、町会として、災害時の初動で何ができるかについて、今、はっきりお伝えできることはありません。考えていかなければいけない、とは、思っています。区役所は、

広報で、色々な情報を出しています。皆さん、あまり、ご覧になっていないと思うので、行政からの情報をどう届けたらいいかというのは大きな課題だと思っています。情報を得たうえで、私たち自身が生活の一部として災害への準備や意思決定をすることになります。ご質問ありがとうございました。

今日は、南池袋二三四町会だけでなく、この小学校を避難所として使う 11 町会の会長さんにもご案内を出させていただきました。東目白本町会、雑司が谷一丁目町会、池袋西睦会から、お越しいただきました。皆様から、お聞きしたいのですか。 代表して、東目白本町会会長に、お願いしてもいいですか。

（G 東目白本町会会長）今日は、どうもありがとうございました。鬼子母神の脇にある東目白本町会から参加させていただきました。また、補助救援センターになっている区民ひろば南池袋の運営を委託している NPO みみずくの杜の理事長を仰せつかっております。今日はいろいろと見分させていただき、改めて防災の原点というところを、再確認した感じでおります。何かと言えば、災害時には、地域と言う運命的集合体の中で助け合っていかなければ、共助精神がないと自分を含めてみんなの生命保持ができないことです。それは、まちづくりにも通じると思いますけれども。やはり助け合わないと。地域の防災対応能力は、私たちが生きていく上で、生活していく上で不可欠の基本的事項ではないでしょうか。

かつて私の若いころは、防災訓練で、バケツリレーによる水消火したことを記憶していますが、イメージ的には、人と人とが繋がっていく、強気も弱気も大きくも小さくも、皆で繋がっていくことだと思いました。今日の搬送、担架訓練でも、同様に皆さんが力を合わせて搬送する行動に、繋がると感じました。だから、日常生活の普段から、隣人そして地域との関係を、できるだけみんなで触れ合いながら過ごしていくというのが、一番大切なことではないでしょうか。まさに、コミュニティを醸成していくことだと思いました。

（防災部長）ありがとうございました。G会長は、先に、動画をお見せしましたら、「区民ひろば南池袋でも、階段をおろす訓練をしようかな」とおっしゃってくださいました。いろいろご紹介すると、それぞれの方が自分のところでできることを提案してくださっています。そういうお返事が、とても有難いことだなと思っております。他、何か意見ある方、言い残した方とかないですか。・・・では、先に進めさせていただきます。

7. 情報提供（図42）

この後、少し、情報提供をします。災害時に、情報が欲しい、という声もよくうかがいます。
豊島区、東京都、官邸、社会福祉協議会のネットからの情報が得られます。防災研修などは、災害ボランティア News 東京というところに登録すると、月に 1 回、メールマガジンが届きます。

町会では、twitter と FaceBook は開設しました。この QR コードで、ぜひ、ご登録ください。HP は 12 月開設予定で、今、準備しています。LINE もプロジェクトごとに作っていて、今後も、いくつか作っていきたいと考えています。

図 42　情報提供

今日のお土産になっている携帯トイレについて、説明させてください(図 43)。災害時には断水して水洗が流れないことがあります。マンションでは、貯水槽の水がしばらく使えますが、トイレに流してしまってはもったいない。また、配管にもし破損があれば、どこかで、汚物が漏れたり逆流するので、排泄物は取り分けるのが基本です。逆流は、自分の家でなく、他人の家に起こるかもしれません。

図 43　災害時のトイレ

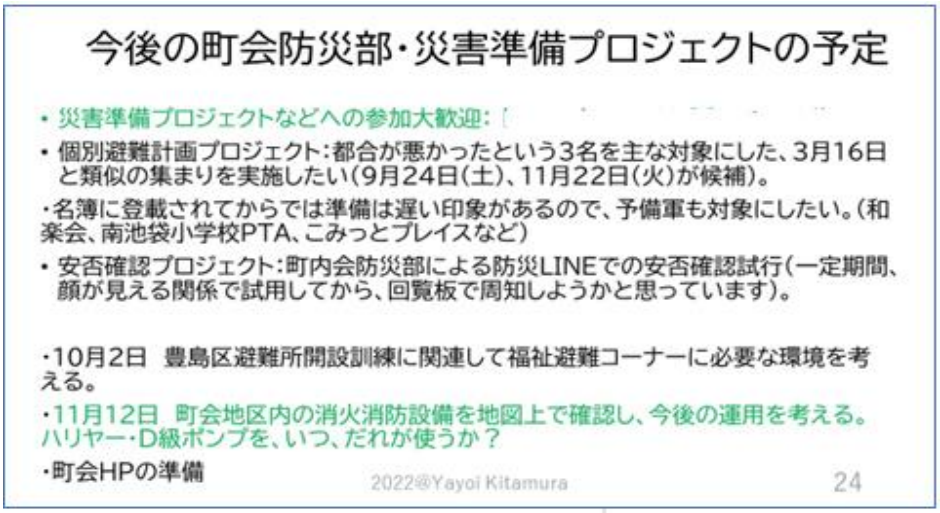
今日の携帯トイレは、ごみ袋と凝固剤のセットです。50 個ずつで 4400 円というのを購入しました。1 セット 88 円ですが、小袋に入れて、シールを貼ったので、百均で買ったのと同じになってしまいました。ご家庭では、個包装でなくてよいので、安価な製品をネットで検索してお買い求めになっておくとよいと思いま

す。災害が発生すると購入できませんので、事前の準備が必要です。ごみ袋とオムツシートのセットの製品、紙製の猫砂をゴミ袋に入れる方法(トイレが復旧したら、少しずつトイレから流せます)、ペット用の尿シート(400 枚で 2000 円)とごみ袋に入れる方法など、色々あります。オムツシートは数回分の吸収量があるので、家族であれば 1 シートを何人かが使うこともできると思います。衛生的で、かつ、安価な方法は考える余地のある課題です。

個人的には、尿は紙コップにとって凝固剤で固めるとゴミが少なくていいと思います。近くの高層マンションには、このセットは箱単位で、各階の備蓄倉庫に入っています。ただし、鍵は 11 階にしかないので、どう使えるか、事前に検討しておくといいと思います。

便に関しては、凝固剤を入れても、そのまま捨てると、ごみ収集車でぎゅっと押しつぶされたときに、汚物が飛び出して、車も作業員も汚染されてしまいます。そこで、普通ごみとは別にして、蓋つきのごみバケツで保管して、排泄物だけの収集日を自治体が指定して出すことが勧められています。豊島区からは、そのお知らせは見たことはないのですが、先進的な自治体は広報をしています。つぶさないでトラックに載せて運搬します。

配管に損傷がないことがわかったら、断水していても、生活用水で排泄物を流すことができます。トイレの性能によって、一定量の水を入れれば圧力で自然に流れる場合もありますし、勢いをつけて水を入れないと流れない場合もあるそうです。平時に、どの程度の水量で流れるか、ぜひ、お試しください。我が家は、数年前には、ペットボトルに入れた水で 1 リットルも必要としなかったと記憶しています。排水の性能は経年劣化があるような感触があります。



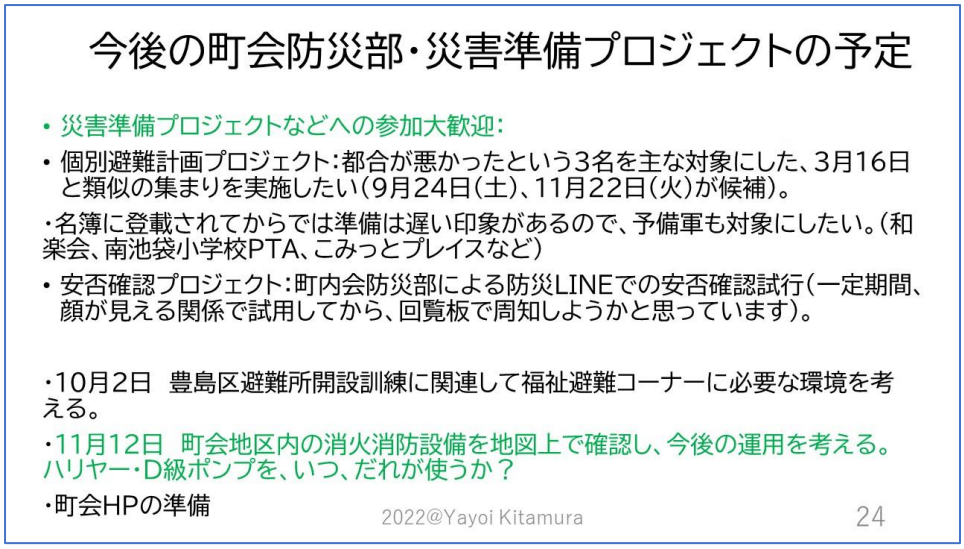


図 44　今後の町会防災部・災害準備プロジェクトの予定

最後に、今後の町会での災害準備プロジェクトをご紹介します(図 44)。それぞれのプロジェクト単位での企画への参加を歓迎します。メールでご連絡ください。9 月 24 日は 25 日に、11 月 22 日は 29 日に変更になりました。11 月 12 日は令和 5 年 5 月に延期の見込みです。

これで、今日の予定は終わりますので、マイクを司会に戻したいと思います。ありがとうございました。

8. 今後の課題

(司会)では、会長から、町会として考える今後の課題を紹介いただきます(図 45)。

(会長)「災害発生に備えて、我々はどの様な方法で支援するか?」は今日の様な試行・訓練を重ねて行く事になります。今後、「プライバシーや責任の問題、費用の問題等の新たな課題も含めて、どの様な支援の仕組みを作って備えるか?」「いつ発生するか分からない災害への意識をどの様に持ち続けるか?」等、少し時間を掛けながら整備をする必要が有ります。

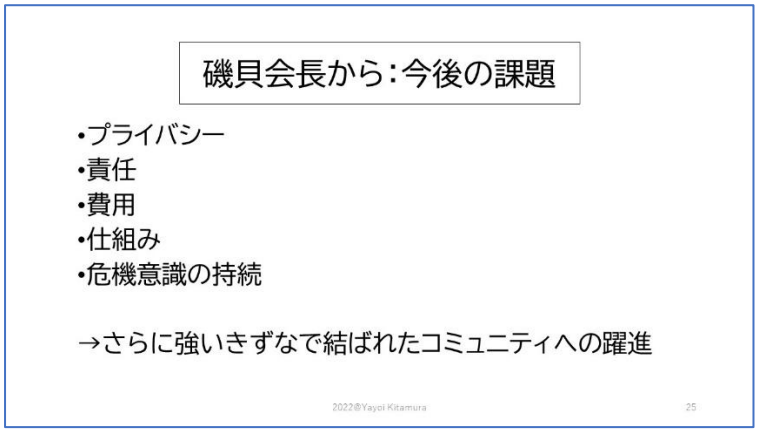


図 45　今後の課題

図 45　南池袋二三四町会会長

この様な支援活動が町会活動として実現すれば、「現在の町会」は「更に強い絆で結ばれたコミュニティ」に

大きく飛躍する事に成ります。零からのスタートで有りますが、実現に向けた、地道な継続が何よりも大切だと思います。本日は有難う御座いました。

9. 閉会

（司会）最後に、町の奈良副会長から、閉会のご挨拶をさせていただきます。

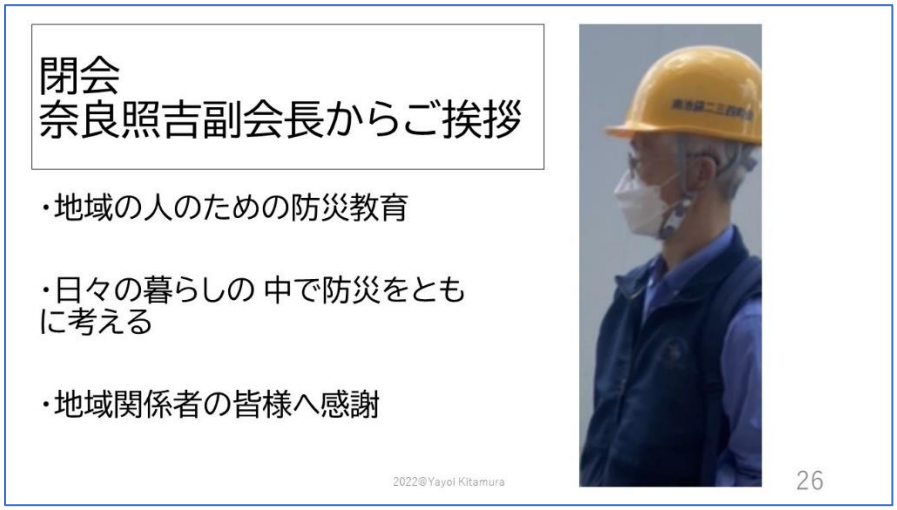


図 46　閉会

（副会長）

　災害時の支援活動訓練の閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます（図 46）。まずは、本日会場にお見えの皆様方におかれましては、長時間にわたりご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

　さて、今回、「安全に階段を下ろす訓練」というテーマで開催をさせていただいたわけでございますが、皆様からのご意見、ご質問など、非常に熱気のこもった熱心な、そして内容の充実したものであったかと思います。本日ご参加の皆様方におかれましては、各ご家庭、各地域、各団体に戻られました後も、本日の議論の成果の数々をぜひとも生かしていただきまして、まさに支援の担い手としてご活躍いただければと思う次第でございます。

　と申しますのも「釜石の奇跡」と「大川小の悲劇」の語り部として現在 震災の伝承や防災教育を担当される 菊池さんが「消防署の人や大学の先生が伝える防災教育と、子どもたちを対象にした学校での防災教育。この 2 つは整いつつあるとは思います。でも、地域の人のための防災教育が、抜け落ちているように感じるんです」と、おっしゃっています。

　専門家や教員として誰かを「指導」するのではなく、日々の暮らしの中で防災をともに考え、伝えたい。最後に、今回の開催に当たりまして、格段のご尽力をいただきました豊島消防署の皆様、南池袋小学校の皆様そして区民社会福祉協議会の皆様を初め、多くの関係者の皆様に心より感謝を申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

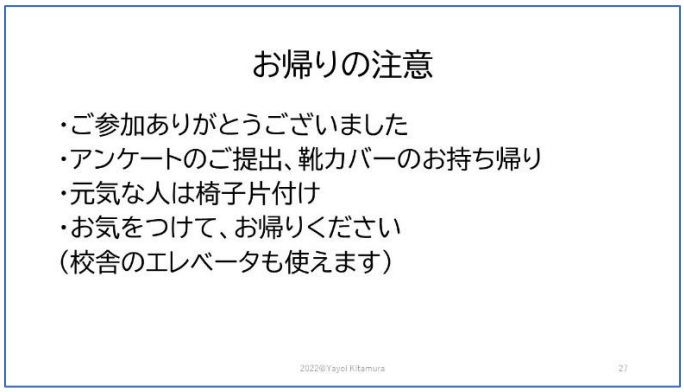


図 47　お帰りの注意

（司会）本日は、ご参加ありがとうございました。最後に確認させてください（図 47）。
・アンケートは受付のあった場所にご提出ください
・靴カバーは、お持ち帰りください。ごみを減らすためです。
・元気な人は椅子片付けをお手伝いください。
・上り階段が厳しい方は、校舎のエレベータが使えます。
では、お気をつけて、お帰りください

10. 防災訓練を終わって

記録を作成している令和 4 年 10 月の段階では、今後の方針について、町会内での意見交換は十分に行えていないため、防災部長の個人的なイメージを記載させていただきます。

（1）階段プロジェクト

大規模地震の後、停電でエレベータが止まった時に、移動困難な人を階段から降ろすのに、「町会はこうします」と言える段階にはありません。できることは、①今回の記録を町会 HP に掲載して情報を共有すること、②情報は広く他の媒体でも発信していくこと、③今回の試行のために町会で購入した布担架とゴム軍手は、「階段を降ろすなどの練習がしたい」という人があれば貸し出しをすることと思います。また、災害時に近隣大学学生や企業職員との連携する可能性は、町会としても探っていきたいと考えています。例えば、今回のように、地域の大学生に手伝いを依頼し、町会費で謝金を執行することも、連携の試行では検討していきたいと考えます。

日本災害情報学会（令和４年９月）で、階段プロジェクトを発表したところ、2つの質問をいただきました。
（a） エレベータなしで高層マンションから降りるのは大変そうだが、転居するという意見は出なかったか？
⇒ 「出なかった。高齢になると物件の買い替えや引っ越しが負担になることと、販売時に安全性を強調したので、災害時に何が起こるか、というイメージを居住者は持ちにくいようだ。」
（b） 降りなくていいための対策は何か考えたか？ → 火事や体調が急に悪くならなければ、エレベータが復旧するまで在宅避難でよいので、①火事を出さない、②初期消火、③健康管理が対策と考えられる。次の訓練では、初期消火を扱う予定。

（2）デジタル技術の活用

すでに、町会では、デジタル技術活用プロジェクトを立ち上げ、令和 3 年 11 月からデジタル技術活用プロジェクトの LINE Group（8 名）を、3 月 29 日から大規模地震への準備プロジェクトの LINE Group（5 名）を開始しています。今後、安否確認プロジェクトと消火プロジェクトの LINE Group 開始を準備する予定です。

デジタル技術活用プロジェクトの大きな目標である町会 HP の開始にあたっては、今回の防災訓練でも質問が出た「基本的な災害情報を紹介すること」も検討しています。

（3）関連組織との連携

ここまで、災害時避難行動要支援者名簿を手掛かりに、地域の関係機関との連携を図ってきました。この連携を継続し充実させることは、①各種報告書の共有、②イベント案内、③いずれは共同の企画で実施しようと考えています。災害時避難行動要支援者名簿には関係しなくても大規模災害時には関係すると思われる組織との連携の拡大も検討していきたい課題です。これから連携をしていきたい組織には、例えば、警察署、南池袋小 PTA、東京音楽大学・帝京平成大学など高等教育機関、中学校・高等学校、幼稚園・保育園、商店、民間企業、区政連絡会、医療機関・薬局等があります。

ご参加くださった皆様とも、引き続き、地域での災害準備についてご意見・ご提案および自発的なご活動と連携させていただくことをお願い申し上げます。

以上

（付録1）会場からの質問：大地震が起こったらどうすればいいか？

いざ、神戸の地震みたいのが起きたときに、我々はどうしたらいいのだろうか。どこに集まったらいいのか。おそらく、連絡網は、みんなぶち切れちゃうと思うもので。そうした場合は、まずどこに避難したらいいのかなというのを伺いたいと思いました。

⇒　災害に関する企画をすると、いつも、この質問が出るため、令和 4 年 12 月公開を目指して、「大規模地震発生時の初動について　1. 救援センターを中心として」（6 枚つづり）のパンフレットを全戸配布予定です。まだまだ、地域内で協議することが沢山ありますが、その手掛かりとして。皆様からのご意見、ご協力をお待ちしています。

（個人的な考え）

災害時に、町会が何をするかについては、まだ、一部で、意見交換が始まった段階ですので、個人の意見として、お返事させていただきます。

「我々＝町会員」がどうしたらいいか？　は、まだ、何も決まっていません。各自に、どうするかをお考えいただき、ご準備いただくのが第一段階と思います。いわゆる自助です。災害時には町会員かどうかに関係ないことが多いと思いますので、町会防災部の活動も平時から、町会員以外の参加も歓迎したいと思います。

公共通信が遮断される場合には、救援センターに情報を集約し、各自は救援センターに情報を探しに来る、ということが考えられます。救援センターには IP 電話があり、区役所と直結できる見込みです。ただ、災害の規模によっては、どれだけの情報が区役所に来るかも、わかりません。どういう方法で、どんな情報が来る見込みかは、区役所防災危機管理課に聞いてみるのもいいと思います。

「まず、どこに避難したらいいか？」というより、基本は、在宅避難です。家にいられるように事前の準備をお願いします。火事が近所で発生した場合は、まずは、近隣で協力して初期消火したいですが、火が背丈を超えた場合には、安全な場所に避難します。豊島区では避難場所として、雑司ヶ谷墓地、イケサンパーク、大学などを指定しています。避難場所には泊まる設備はないので、自分の家が焼けてしまったら、知り合いの家に行くか、避難所（救援センター）に行くことになります。南池袋二三四町会の地区内の救援センターは南池袋小学校です。区役所 1 階は、水害の時には、救援センターになりますが、地震の時には救援センターにならないそうです。

従来、一般的に、町会あるいは隣近所に期待されているのは以下です。

① 安否確認（安全が確認できた人、確認できない人、救助が必要な人）を近隣で確認して、必要な支援の要望と共に救援センターに届ける。
② 協力して初期消火を行い、火事の被害を最小にする
③ 可能な範囲で、倒れた家具や倒壊家屋から人を救出し、医療機関につなげる

南池袋二三四町会では、以下のように計画しています。企画や運営にお手伝いいただける人は、ぜひ、ご連

絡ください。

① 安否確認：令和４年後半　に一部の班で試行

② 消火器操作と地区内の消火設備の確認：令和５年５月

③ 救出訓練：検討中

もう少し、一般的な話です。災害の基本は自助、共助、公助です。自助としては、命を失わないために、以下をお勧めします。

① 家屋の耐震性を確保（昭和 56 年以前の建造物は耐震性が低いので、耐震性のチェックをして、必要ならば補強工事をする。公助として区から耐震性診断と耐震工事に助成金が出ています。家屋の工事が難しい場合には、寝る場所の上に補強する機器の購入にも豊島区の助成金はあります。

② 家具の下敷きにならないために、家具の固定をする。自分でできない場合には、社協や町会に相談いただければ、検討できると思います。

③ 窓ガラス飛散でけがをしないために、窓ガラス、食器棚のガラス戸、倒れそうな鏡には、飛散防止フィルムを貼ります。これも、自分でできない場合には、社協や町会に相談いただければ、検討できると思います。

④ 飲食料、日用品、医薬衛生品の備蓄を２週間分しておく。

⑤ 災害時の基本は在宅避難です。停電・断水で、エアコン・給湯器が止まり、水洗トイレが使えない場合の代替方法を練習し、必要な物品を２週間分備蓄しておく。携帯トイレ、カセットコンロのボンベなど。

⑥ 災害や体調不良の時に相談できる近所の人と連絡先を交換しておく（電話、携帯電話、メール、LINE など）。親族が徒歩圏内にいない場合は、親族の連絡先も近所の人と交換して、近所の人に連絡の中継を頼めるようにしておく。

⑦ 万一、家の中で家具の下敷きになったり、扉が歪んで玄関から外に出られなくなった場合に、どうやって、助けてもらうか。鍵をどう開けるか、考えておく。

以上の準備をすることで、被害を最小にする努力を各自でしたいと思います。

避難所（救援センター）に泊まりに来るのは、家が火事で焼けたり、倒壊などで住むのが危ない場合です。23 区では、どこの自治体でも、想定される避難者の 65％程度しか避難所の収容数は確保できていません。過去の大きな災害では、停電と断水だけでも、余震が怖くて、救援センターに来てしまいがちですが、それでは、本当に避難が必要な人も収容できません。救援センターで宿泊するための毛布は 1000 枚、食料は 1 日分しかありません。これは、11 町会分です。2 日目と 3 日目については、他の場所に保管してある区の備蓄倉庫からの搬入、その後は都や国からのプッシュ供給が計画されていますが、いつ、何が来るのか、はっきりと約束できないのが災害です。ある程度は聞いておきたいとは思うのですが。皆様が得た有効な情報は、是非、共有してください。

避難所に来るときには、自分に必要な物は持ち込むとよいと思います。特に、薬は重要です。ペットを連れてくる場合は、ケージに入れて連れてきていただき、人とは別の場所を使っていただくことになる場合が多いです。南池袋小の救援センター開設準備は、令和４年 10 月の訓練から始まるところです。

泊まらなくても、物資と情報の中継点として救援センターは機能する予定です。一日一回程度、新しい情報を得たり、要望を伝えるために来ていただくといいと思います。全員が、立ち寄るだけでも混雑すると思いますので、情報や物資の中継を班や地区単位で行うことも検討しなければならないと考えています。

町会で何をすればいいのか、何ができるのか、皆様のご意見も、ぜひ、教えてください。また、皆様の具体的なご協力も不可欠です。

（付録2） 車いす・歩行器での体育館への出入り

9:51　体育館の入口には、1 段ずつの段差が 2 か所あり、消防団 3 名と消防署員 2 名で車いすを持ち上げていただきました。車輪は持たないのが原則です。

タイヤをウエットティッシュで拭きました

階段プロジェクトにご協力くださった A さんはご家族と参加

校長先生から、選挙会場用にトイレの奥の倉庫に入っているスロープがあることを教えていただきました。

大きくて重いですが、消防団員 2 人で運んでくださいました。出入口は縦にして移動。体育館の玄関の横に設置

カーブしているスロープは体育館正面玄関用のようです。

（付録3） 準備

4 月末　会場仮予約
5 月末　会場本予約
6 月はじめ　校長先生、副校長先生に映写機などの借用依頼
6 月半ば　デジタル活用プロジェクト会議の後で、お土産の携帯トイレを袋詰め 100 個

6 月 24 日　会場で機材確認（スクリーン、映写機、キャスター、電気、エアコン）

6 月 26 日　9:00　スタッフ集合（会長、副会長、防犯部長、防災部長、司会、受付 6 名：主に役員）
会長はアクリル板を運搬、役員はごみ袋の設置など会場設営。ごみ袋は、副会長がご自宅に持って帰ってくださいました。

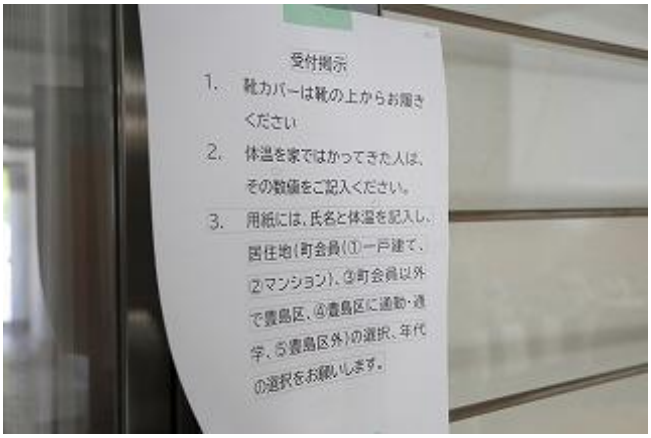
9:12　会場、受付設営

9:15　学生 4 名集合　机といすの配置、お土産分別などの後、入り口で靴カバー配布
右：受付にはアルコール消毒も用意。これも、令和　2　年末に都の助成金で購入しました。この時、購入したマスクも持参しましたが、全員、マスク着用で参加くださいました。

9:22　資料、アンケート、鉛筆は椅子の上に配布して、受付での手渡しを省略
お土産は、冷たいペットボトルのお茶が当日到着なので、朝、お土産と一緒に袋詰め
お土産は統一して椅子配布の方が簡単だったが、区役所から提供されたごみ袋の数が足りないため、椅子配布でなく、町会員かどうかを確認して受付で手渡し。ごみ袋を追加して、全員均一にした方が楽だった。

9:26　左:お土産のセット　　右:受付スタンバイ

9:29　入口には、受付の段取りを掲示しましたが、サイズ（A3）では小さかったようです
右：入り口では靴カバーを渡して、靴の着脱を省略



9:30　椅子の設置には、東京福祉大学の先生もお手伝い。右：歩行器の方も多くいらっしゃいました。

靴カバーを履くのに、椅子や手助けの準備も、受付担当者の機転でした。入場時には検温。

受付用の名簿は文字が小さかったというご指摘がありました。次回改善します。受付では、アクリル板を使用。
令和 2 年度の終わりに、都の助成金で購入した物で資材倉庫から、会長らが運搬してくださいました。

映写機の設定をする防犯部長と奥様

高校生アルバイトから南池袋小校長先生にお土産をお渡し

最年少者は、たぶん、5 歳。

スタッフ
会　長：磯貝　徹二
副会長：奈良　照吉
防犯部長：島田　孝
防災部長：北村　弥生
ブリリア担当部長：舘野　和子
会　計：海野　敬子
準備補助：島田　景子
受　付：春原　晶子、小沢ヨシ子、中村紀美子、大野敏子、福島まち子
協　力：豊島区防災危機管理課、東京消防庁豊島消防署目白出張所、豊島消防団第五分団
南池袋小学校、豊島区民社会福祉協議会
佐藤　惟（東京福祉大学社会福祉学部社会福祉学科講師）と学生２名
日本女子大学生１名、高校生１名
撮影・動画編集：武井里香、武井優美（スタジオアイランド）

この記録は、発言者に内容確認を得て取りまとめました。確認が取れないところもありますが、ご容赦ください。

発行：南池袋二三四町会
令和４年10月27日